

# クレドール(金の鍵) 使いやすい



23401

最近の利用者様の好事例とお声をご紹介します

## ① 3歳 小児ケア 言語聴覚士と理学療法士によるリハビリ好事例

### 構音障害・発達性協調運動障害 8ヶ月で改善の症例

**当初経緯** 保健センターにて2歳時に言葉の発達の遅れあり受給者証発行。お母様が言葉の専門施設探すも数ヶ月待ちのところばかりであった。初めて訪問した際 発語はママ、ピッピ等 ほぼ1語文で言葉の遅れやあり。また発音の歪みあり構音障害も見られた。→ 8ヶ月後「僕はね アンパンマンが好き」「赤い鬼きた。鬼のパンツあったよ」 食事はうどんもあまり噛まずに飲んでいるかもとのことで口腔器官運動の拙劣さあり。運動動作も歩行は問題ないが公園の遊具でうまく遊べないなどあり理学療法も必要とお伝えする。

**言語聴覚士 経過** 発語コミュニケーション能力の向上目的にて言語リハビリ開始。やや人見知りはあるものの一緒に遊ぶことは可能で発語した言葉を繰り返す、音を正確に話し伝えるよう心掛け、一語で答えられる質問を投げかけることを意識して会話すすめていく。遊びは絵カードや絵本、家にある電車やボールプールなど興味を持ったものを中心に遊んでもらう。ごっこ遊びではお母様も交えて先生の真似事などもされるなど色々な遊びを経験され2、3ヶ月ほど短いものではあるが「これ、何」や「あっちあるよー」などの2語文が出てくるようになり声かけも2語文で投げかけると自ら積極的に話され、お母様にもたくさん質問されている。日常場面でお母様も興味を持つ遊びに関連したものを部屋に張ったり準備したりと関心の深掘りをされている。成長の中で相手がいる遊びをすることが増えており語彙数も向上見られた。介入から半年ほど経過した時点で会話も2語文以上で常に話され、正しく発語できるようになってきているなど構音の成長も見られた。

**理学療法士 経緯** 介入時電車が好きな男の子で、神経や筋肉の異常はないものの運動や新しいことへの挑戦が苦手な印象でした。“階段は一段ずつ慎重に登り降りしている、公園の遊具で楽しく遊べない”など実年齢と比較してやや運動発達が遅れているとお母様から不安の訴えをお聞きした。そのためPTプログラムでは、今できている遊びを工夫して徐々に難易度アップし(トランポリン→足じゃんけん→片脚ジャンプ→回転ジャンプ等)バランス感覚や持久力を高めていきました。また運動が楽しいと感じてもらえるよう心がけ、できるようになったことを褒めることで達成感や自信に繋がったのではないかと考えます。

### お母様の声

クレドの皆様、これまで大変お世話になりました。毎回お二人が来られることを楽しみに過ごしており、母としてはとても嬉しい気持ちで、過ごさせていただきました。また、おかげさまで、日々の中でも言語や運動面で成長したなあと実感することが多く、クレド様には夫婦共に大変感謝しております。

## ② 理学療法士による好事例：60代 右上肢不完全麻痺 男性の投稿より

ケアハウスに入所し一年が経ちました。介護認定は要支援2で週2回のリハビリを受けています。

私の場合、脚、腕麻痺、膝、股関節などに痛み、筋力低下がある状態ですが、担当のPT先生は様々な筋肉、筋を緩めたりマッサージをしていただいています。

多くの筋肉や部位について当日の体調も診ながら身体のバランスを整える施術をしてもらうには、豊富な知識や経験が必要で、全面的に信頼して安心して任せられる事に大変感謝しております。

クレド訪問看護ステーション本部 ☎ 072-681-4670

阪急高槻 ☎ 072-609-5208 吹田 ☎ 06-6170-6706